

第13回 韓日未来フォーラム 報告書

奥谷莉里花

今回、私が第13回韓日未来フォーラムに参加した理由は、自分が普段日韓交流をしているサークルで出会える人達以外の韓国人や韓国、朝鮮に興味を持っている学生に会って話がしてみたいと思ったからだ。これまでも、普段所属している日韓交流サークルの活動で、日韓の学生達とシビアな問題について討論をしたことはあったが、発表の準備を行ったことは無かったので、討論の展開のみならず発表の準備をどのように行うのかについても楽しみな気持ちが大きかった。

私が四つある討論テーマの中から、メディア班を選択した理由は、これまで慰安婦問題や歴史歪曲などについて日韓の学生達と話してきて、日韓の間にはびこるそれらの問題を悪化させている根源も解決の鍵となるものもメディアなのではないかと考えるようになったからだ。



班ごとにわかれた後で、まず発表の準備のひとつとして、メディアについて班のメンバーそれぞれが感じていることや伝えたいことを発表した。個人発表の中では、実際のドラマや新聞などを例にとる人もいれば、メディア媒体全体をマクロな視点から分析する人もいた。それぞれが思い思いの発表をする中で、多くのメンバーが共通してあげた内容がいくつかあった。

一つは、『メディアは、自国の被害に重点を置くこと』二つ目は、『嘘をついている訳では無いが、本当のことを言っている訳でもなく、好奇心を煽る、誤解を生むような表現を使用していること』三つ目は、『SNS や YouTube など、自ら発信ができ、さらに人々の反応をコメント欄で見ることの出来る媒体には、中立性を期待できる』といった内容だ。

そして、現在の日韓のメディアの現状として、互いに同じ出来事に対する伝え方の違いがあるせいで、日韓で認識の差が生まれていることが問題点として上がった。これは新聞を例に出すと、新聞社ごとに色があり、それぞれ立場が異なるのにも関わらず、日本の中で最も右翼とされる新聞の内容が、韓国で"日本の報道"を代表して取り上げられてしまう、といったケースがある。決してその新聞社の立場が日本国民の立場と同じでは無いのに、まるで日本人がみなそのような考え方をしているかのように報道されることで、韓国人の日本人に対するイメージを悪くすることに繋がるだろう。

また、そのような日韓のメディアの問題点に対する対策として、メディアからの情報を鵜呑みにするのではなく、中立性を持つために疑ってみたり、違う国家が出している記事を読んだりすることによって知見を深め、人の意見に左右されて自分の立場を決めるのではなく、自分で聞いて、見て、感じたことから考えて意見を持つべきだという話が出た。

次に私たちは、メディア班が今回考えなくてはならない、『メディアの役割』とはどのようなものか、考えることにした。大きく分けて3つの案が出た。

一つ目は、ネットニュースなどのコメント欄の構造が日本と韓国で違う、という話がきっかけで出てきた案である。コメントをするという行為は韓国人にとって比較的身近な行為であり、コメント欄を見る人も多いため、韓国のコメント欄はリアルタイムで常に最新のコメントが上に表示されるような構造が多い。それに対し、日本のコメント欄は、そもそもネットニュースに何かをコメントするという文化がそこまで主流では無いせいも、コメント数も多くはなく、上に表示されるのはイイネを多くされたものになっていることが多い。これによって、日本のコメント欄の上の方には、一部の人達に熱く指示をされる偏った意見があることが多くなっている。そのニュースを見てコメントをしなかった大多数の意見より、コメントをした少数意見の声の方が大きくなってしまふのだ。もちろん逆に、大多数の意見に、少数の貴重な意見がかき消される場合もある。これに対する対策として、『様々な意見が強調される状況を作るために、メディアコンテンツの意図的構造化が必要である』と考えた。コメント欄の構造が、一人一人の考えや行動に大きな影響を与えていくと感じたからこそ、多様な意見を目に見えるところに反映できるシステムが必要だと感じた。

二つ目は、アニメやドラマなど互いの国の文化コンテンツをきっかけに、学校では習わない今の日本、今の韓国に興味を持ち、互いの国への理解が深まることがある、という話から出た案である。国家間に問題があれども、文化コンテンツや国を超えた友人との繋がりを超えたと考え、『文化コンテンツをきっかけに互いの国民が持つ凝り固まった考え方を変えていく』ことが必要だと考えた。

三つ目は、少子高齢化問題などの共通の課題であれば、相手の国を悪く言うことは無く、同じ立場から物事を考えられるようになる、という話から、『互いの国に共通する課題などを積極的に報道し、一緒に考えていくというスタンスを取るべき』という案が出た。



これらの問題点や、それに対する対策案を元に、私たちは発表の構想を決定し、序論、本論、結論部分で3チームに分かれて、それぞれ準備を行った。準備の過程では、結論をどこに持っていくかで少し時間がかかったり、最終的に各チームが作ったパワーポイントをまとめてみると、チームごとに資料のボリュームの差が大きく、そのバランスの悪さを直すためにまた話し合ったり、発表日前日の夕飯後、日付が変わったあとで皆で読み合わせをしたり、と他のどのチームよりも長く時間がかかっていたと思う。内心、発表前日の夜ギリギリまで準備をしていた時は、『なぜほかの班はそんなにすんなり終わったのだろうか、何が悪かったのだろうか』と考えていたが、他の班のメンバーに『メディア班はすごく仲が良いよね』と言われた時、私たちは言いたいことをしっかり伝え合い、妥協せずに納得いくまでやり切れている良いチームだと気づくことができた。実際、最後まで部屋に残って作業をしていた時も、皆夜ご飯に向けて『あと一息だ!』と互いに気合いを入れあっていて、結局一番疲れていたはずのあの時間が一番楽しかったと思う。



実際、発表自体もとても良い雰囲気で出来たと感じている。発表が終わった後は、各班に分け与えられたご飯代の余りでパンを買ってきて分け合って食べたり、写真を撮ったりと楽しい時間を過ごすことが出来た。フォーラム中、同時進行で行われていたマニトゲームのミッションも私だけでは確実に『出来ない!』と諦めていたような難しい内容だったが、班のメンバーに後押しされ、協力してもらい、なんとかやりきることが出来た。恥ずかしくて出来ないようなミッションもメンバー同士、無理矢理にでもやらせていったことでマニトゲームでもメディア班は1位を取ることができた。景品で貰った性能のいいコップで、今度みんなで美味しくお酒が飲みたいと思う。



他の班の発表もとても面白く、就職チームの発表では、実演を挟んだ発表が印象的で、更に発表を聞けば聞くほど『明らかに日本で就職する方がいいじゃんか』と思わされる内容だった。慰安婦問題チームの発表では、発表の前提として、慰安婦問題に強制性があったという立場で『日本軍慰安婦』と『従軍慰安婦』などの表記の仕方から分析していたのが面白かった。歴史教育チームの発表は、『歴史を100%ファクトとして捉えるのではなく、状況を判断する根拠として利用すべき』という言葉が印象的だった。また、この班の発表では、歴史歪曲の定義を『ファクトと違うことを信じきって他の情報を受け入れようとしない状態』としていた部分が、これまで私が考えていた歴史歪曲とは異なり、面白かった。

今回のフォーラムは、討論で終わらずに発表準備までをしたことによって、自分が普段学校の授業の為に適当に作るパワーポイントの考察のしなさや、構想の薄さを痛感できる良い機会になった。また、『3日間しかないのだから、猫なんて被らず初めからありのままなるべく過ごそう』と意気込んで来たことが良い方向に転び、想像していた以上に班のメンバーと仲良くなれた。3日間しか過ごしていないのに、余韻が残るほど楽しかったし、絶対にまた集まろうと約束した。全員がメディア班を第1希望にした訳でもなく、本当にたまたま集まったチームだったが、良いメンバーに巡り会えたな、と心から思う。今回の経験と人との縁を大切に、日韓のメディアを良い方向に変えていく働きかけをしていきたいと思う。

最後に、今回のフォーラムの為に、事前にたくさんの準備と苦勞をして下さった村田委員長と実行委員の皆さん、本当にありがとうございました。

